



苗字、名字の由来は？

■珍しい苗字

「宍倉」「牛頭」「白栴」。これらの字句を何と読みますか？

「宍倉」は、「ししくら、しんくら、しくら、ししど」と読みます。「牛頭」は、「ごず、ごうず、こず、ごづ、ごぞ、うしのと、ごのかみ」と読みます。「白栴」は、「しらかば」と読みます。これらの字句は何を意味しているのでしょうか？ 実は、これらの字句は“人数の少ない希少な名字”なのです。

「宍倉」は【全国人数】およそ7,000人。「牛頭」は【全国人数】およそ430人。「白栴」は【全国人数】およそ170人。

■平民苗字許可令

9月19日は「苗字」の日です。明治維新後に新政府は四民平等の社会を実現するために平民に苗字を公称することを許可しました。

1870年(明治3年)年9月19日に公布された太政官布告第608号「平民苗字許可令」です。現在、9月19日が「苗字の日」とされているのはこの日に由来しています。

■「名字」と「苗字」

現在、二通りの表記がありますが、それぞれ異なる語源があります。

■名字

平安時代に各地の荘園が「名田」と呼ばれるようになりました。名田を治めるものなどがそれに因んだ字(あざな)を付けるようになったことから名字となりました。

■苗字

江戸時代、苗裔(びょうえい:遠い子孫の意)という言葉から、子孫繁栄という意味を込めて「苗」の文字が使われるようになったとされています。

苗字を付けることを許可されたのに届出は、円滑には進みませんでした。その理由は「税金を多く取られるようになるのではないか」とされています。苗字公称はこのように混乱をもたらしました。寺に頼み込んで苗字をつけたり、役場が全世帯の苗字をつくったという例も記録されています。当時の混乱ぶりが目に浮かんでくるようですね。



ライターやマッチの 火遊びに注意

■子供のライター、マッチ事故

子どもは、大人が使うライターやマッチの扱いに興味を持ちます。

消費者庁には、医療機関から子どもがライターやマッチでの火遊びによって負傷した事故情報が寄せられています。例えば、

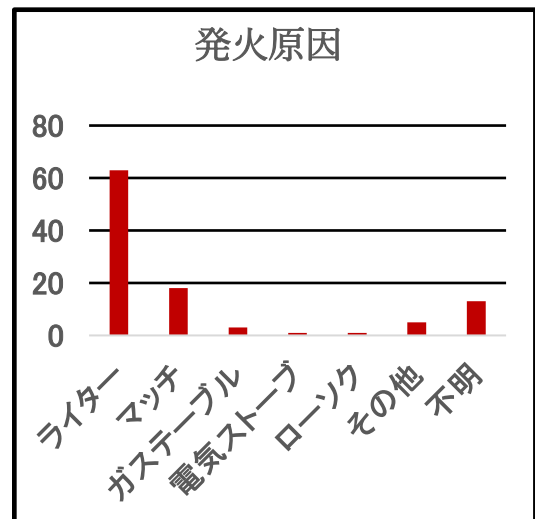
- ①「子どもが自宅内でティッシュにライターで火をつけて遊んでいたところ、ティッシュを持っていた手に火が付いた。右手の指の一部が赤くなり、水膨れができた。」(10歳)。
- ②「保護者が外出中で子どもが一人の時、火遊びをして火事が発生。火元にはマッチの燃えかすと点火棒ライターがあった。煙を吸ったようだが、呼吸の状態に異常はなく、経過観察のため入院。」(7歳)。

現在、市販の使い捨てライターには、幼い子どもが容易に着火できないよう、PSCマーク付きのCR(チャイルドレジスタンス)機能が導入されて幼い子どもによる火災事故は減少しています。しかし、CR機能のある使い捨てライターであっても、完全に事故を防げるわけ

ではありません。子どもがライターやマッチで遊ばないように、周囲の大人が子どもの目に触れない場所にライターやマッチを保管するとともに、子どもに火遊びの危険性をしっかりと伝えましょう。また、不要なライターは必ずガスを抜いてから居住する地方公共団体等のルールに従って適切に処分しましょう。

●平成29年から令和3年までの東京消防庁管内での12歳以下の子どもの火遊びに使用した発火源は何か多いか？

発火源104件のうちライター63件





火遊びによる火災を 防止しましょう

■火遊び事故

消防庁のデータによると令和2年中の全国の火遊びによる火災は320件発生しています。子供だけで火遊びをする時に発生することが多く、そのため火災の発見が遅れ、火災が拡大する要因になります。

火遊びによる火災のうち、「ライター」によるものが175件(54.7%)で最も多く、次いで「マッチ」によるものが58件(18.1%)、「火のついた紙」によるものが19件(5.9%)となっています。これらが全体の件数の約8割を占めています。火遊びによる火災を未然に防ぐためにも、大人が子供たちに対して正しい火の取扱い方や火災の恐ろしさを教える必要があります。火を使う前は、子供たちと火の取扱い・火災の恐ろしさについて話し合うようにしましょう。

●子供の火遊びによる火災防止のポイント

1. 子供だけを残して外出しない
2. ライターやマッチを子供の手の届くところに置かない

3. 子供だけで火を取り扱わせない

4. 火遊びを見かけたら注意する

5. 火災の恐ろしさ・火の取扱いについて教育する

●PSCマークのないライター等の販売は規制されています

消費生活用製品安全法により、いわゆる使い捨てライターや多目的ライターは、本体にPSCマークが表示されていないものは販売が禁止されています。

PSCマークは、子どもが簡単に操作できない幼児対策(チャイルドレジスタンス機能)等の技術基準に適合した場合に付される表示です。御家庭のライター等にPSCマークが付いているか確認しましょう。





花火は楽しく安全に 遊びましょう

■花火事故

夏の風物詩と言えば、「花火」。子供たちにとっても楽しみな季節となりました。夕暮れ時になると、色とりどりの花火が私たちを楽しませてくれます。しかし、遊び方を誤ると、気軽に楽しめる花火も、火災や火傷などの事故につながりかねません。

全国で、花火による火遊びが原因の火災は令和元年中に9件、令和2年中に6件発生しています。火災や火傷などの事故が起こらないよう遊び方には十分注意し、楽しい夏の思い出にしましょう。

●花火を安全に遊ぶポイント

1. 風の強いときは花火をしない
2. 燃えやすいものがなく、広くて安全な場所を選ぶ
3. 子供だけでなく大人と一緒に遊ぶ
4. 説明書をよく読み、注意事項を必ず守る
5. 水バケツを用意し、使った花火は必ず水につける

●SFマーク付きおもちゃ花火を使用しましょう

(公社)日本煙火協会の検査所では、火薬類取締法に適合しているか否かを見る「基準検査」、また、花火の構造、燃焼現象、使用方法に係わる表示を確認し、実際に着火して危険の有無を調べる「安全検査」を実施しています。これらの検査に合格したおもちゃ花火には、SFマークが付されています。



SFマーク (Safety Fireworks)

引用・編集は「全国消防庁予防課予防係ホームページ火遊びによる火災の防止」

https://www.fdma.go.jp/publication/ugoki/items/rei_0307_25.pdf

引用・編集は「全国消防庁予防課予防係ホームページ花火による火災の防止」

https://www.fdma.go.jp/publication/ugoki/assets/2807_36.pdf